

全米最大級のお茶専門のイベント ラスベガスで開催

蟬本 睦

＜お茶業界関係者が集う＞

6月12～14日の3日間、全米最大級のお茶のイベント、ワールドティーエキスポがラスベガスコンベンションセンターで開催されました。このイベントは展示会と業界関係者を対象とした多くのセミナーからなります。これからお茶ビジネスを始める方を対象とする集中講座（ブートキャンプ）や、様々なお茶ビジネスに関係する講座が用意されており、お茶ビジネスに携わるものとしては、欠かせないイベントとなっています。



(賑わう会場の様子)

＜来場者の傾向＞

多くのお客さんとブースにて商談をさせていただきましたが、多くは西海岸、ついで南部、中西部、そして東海岸からの来場が多く、欧州や、メキシコやコロンビア、エクアドルといった中南米からの来場も多いと感じました。また、近年目立ってきているのが中国企業です。出展者、来場者ともに中国の方々が増えた印象があり、また、気になる動きとしては、中国企業が堂々と「抹茶」と称した商品を展示していたことです。

＜米国のお茶の市場＞

お茶の消費量は、米国茶協会によれば、1990年に18億ドルだった年間の売り上げが、2017年にはほぼ10倍の125億ドルとなっています。まだまだ、コーヒーが強いアメリカ市場ではありますが、お茶の市場は年々広がってきていると言え、展示会場でも

「これからお茶を出すお店を開く」といった新規参入を計画している来場者が多くブースを訪れました。



＜緑茶がトレンドを引っ張る＞

緑茶は米国で消費されるお茶としてはかなりマイナーな存在でしたが、高級茶市場が育ってきたおかげで、丁寧に作られた日本のお茶に注目が集まっています。なかでも、抹茶の人気は本物で、数年前はスターバックスで「Matcha」では通じませんでした。今回の展示会でもいたるところに「Matcha」の看板が出ており、人気であることが伺えました。

＜日本企業の参加＞

日本企業としては、当地に進出している伊藤園がメインスポンサーとなっており、同社米国法人のロナ副社長がレセプションでの司会を務めるなど非常に目立っていたほか、同じく米国に現地法人を持つ、あいや(愛知県)、葵製茶(同)は現在米国でも大きなブームとなっている抹茶をPRしていました。また、全国第2位の緑茶生産量を誇る鹿児島からも鹿児島製茶が出展していました。また、ティーバックフィルターを扱う大紀商事(大阪市)が出展していたほか、ティーバッグへの充填機械の最大手、不双産業(静岡県)も入口近くに大きな機械を展示し、ティーバッグへの充填の実演を行っていました。筆者も日本の茶器(茶筒とティーポット)を扱うブースをそれぞれ出展させていただきましたが、本展示会はお茶そのもののみならず、こういった周辺の産業にも多くのチャンスがあると思いますので、ぜひ広島県企業もチャレンジしていただきたいと思います。

